

昆虫成長制御 (Insect growth regulator : IGR) 作用を有する鶏用エトキサゾール製剤に対するワクモ (*Dermanyssus gallinae*) の感受性と本剤による清浄化

<sup>1</sup>JA 全農 家畜衛生研究所 研究開発室

<sup>2</sup>JA 全農 家畜衛生研究所 クリニックセンター東北分室

○ 石田祐貴<sup>1</sup>、福田啓志<sup>2</sup>、村野多可子<sup>1</sup>ほか

【背景】2014年10月に市販された昆虫成長制御作用を有する鶏用エトキサゾール製剤 (IGR 剤) は従来の殺虫剤と作用機序が異なるため、新たなワクモ対策剤として期待が寄せられている。全国の養鶏場で採取したワクモに対する本剤の薬剤感受性試験を、また効果的な使用方法を確立する目的で、野外鶏舎を用い薬剤散布試験を実施したので報告する。【材料および方法】薬剤感受性試験は2014年から2016年までに78農場から採材されたワクモについて実施した。野外試験はワクモ汚染度が低い1鶏舎、高い2鶏舎を使用した。低汚染鶏舎にはIGR剤のみ(1区)、高汚染鶏舎の1鶏舎には従来の殺虫剤散布1週後にIGR剤(2区)、残りの1鶏舎は従来の殺虫剤を1週間隔で散布した(対照区)。鶏舎内にトラップを設置し、ワクモ数の推移を調査した。【結果】3ヶ年の成績をまとめた結果、飼養羽数1万羽未満の3農場では0%、10万羽未満の31農場では32.3%、50万羽未満の34農場では41.2%、50万羽以上の10農場では40.0%の農場でIGR剤に対するワクモの感受性低下を認めた。野外試験では1区、2区の開始前平均ワクモ数は6匹、16,160匹であったが、両区とも散布6週後に0匹となり、約1年を経過しても清浄化を保っている。対照区の開始前平均ワクモ数は6,370匹で、散布3週後に49匹に減少したが、8週後には増加し始めた。【考察】調査した農場数は少ないが、30%以上の農場のワクモで本剤に対する感受性低下が認められた。早期に感受性が低下した要因の1つとして、ワクモ高汚染鶏舎では本剤が十分に行き渡らなかったと考える。野外試験の結果と併せて、本剤はワクモを減少させた後に使用することが望ましいと推察された。